

出雲市環境レポート

平成27年度(2015)のまとめ

出 雲 市

目 次

I	はじめに	2
II	出雲市の環境の状況	
1	生活環境	3
2	自然環境	5
3	快適環境	6
4	地球環境	7
5	循環型社会の構築	7
III	出雲市の環境への取組	
1	澄んだ空気ときれいな水に潤い 健康に暮らせるまち	
1-1	大気環境の保全	8
1-2	水環境の保全	9
1-3	健康に暮らせる環境の保全	10
2	人と自然がふれあい ともに生きるまち	
2-1	野生動植物との共生	11
2-2	豊かな自然とのふれあい	11
2-3	森林と農地の保全と再生	12
3	悠久の歴史が息づく 美観と快適空間のまち	
3-1	景観保全と緑地の確保	13
3-2	環境美化の推進	14
4	地球を考え 地域から実践するまち	
4-1	地球温暖化防止の取組	15
4-2	地球規模での環境問題への取組	16
5	「もったいない」の心で築く 循環型のまち	
5-1	廃棄物対策と資源循環の推進	17
5-2	環境と経済の好循環の推進	18
6	ともに学び行動する 環境意識が高いまち	
6-1	環境学習・環境保全活動の推進	18
6-2	環境情報の提供と共有	19
IV	出雲市役所の取組	
1	平成27年度の取組結果等	20

I はじめに

出雲市では、平成 19 年 3 月に「出雲市環境基本計画」を策定しましたが、計画策定以降、東日本大震災を契機とした国のエネルギー政策の見直しや斐川町との合併による市域の拡大など、本市を取り巻く状況は大きく変化し、新たな課題に取り組む必要が出てきたことから、平成 25 年 3 月、「第 2 次出雲市環境基本計画」を策定しました。

出雲市環境レポートは、出雲市の環境の状況等を明らかにするとともに、これらの計画に掲げた施策や目標の進捗状況を点検・評価することで、市民の環境への関心を高め、情報の共有を図ることを目的とし、毎年発行することとしています。

【平成 27 年度の概要】

環境基本計画では、6 つの基本目標を推進するために、各施策において数値目標（44 項目）を掲げています。

平成 27 年度の数値目標の達成状況は、中間目標値（平成 29 年度）を達成した項目が 23 となり、前年度より 2 項目増加となるなど、改善傾向にあります。しかし、中間目標値に達成していない項目が未だに 21 あり、平成 29 年度の達成に向けて、より積極的な取り組みを行う必要があります。



出雲平野の築地松

II 出雲市の環境の状況

1 生活環境

(1) 大気環境

ア 大気の環境基準達成状況

市内では、出雲保健所が二酸化硫黄(SO₂)などの大気汚染物質を常時監視しています。

平成 26 年度の環境基準達成状況は、次表のとおりでした。光化学オキシダント (O_x) が環境基準を達成していないものの、それ以外は概ね良好でした。

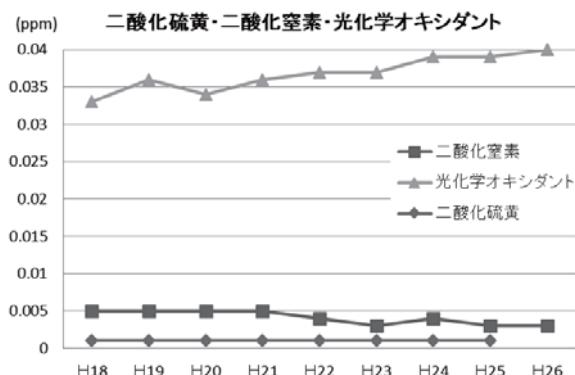
近年、微小粒子状物質 (PM2.5) 濃度の上昇がたびたび観測されるようになり、環境省が定めた指針値を超えると予想した場合は、注意喚起を実施することにしています。

大気の環境基準達成状況

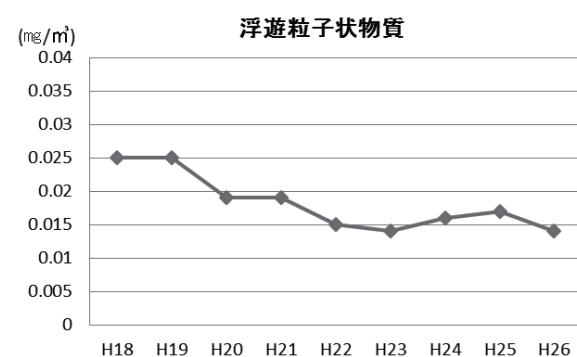
大気汚染物質名	基準年度 (H22 年度)	現状 (H26 年度)	環境基準
二酸化硫黄 (SO ₂)	○	—	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下で、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下
二酸化窒素 (NO ₂)	○	○	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下
浮遊粒子状物質 (SPM)	○	○	1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下で、かつ、1 時間値 0.20mg/m ³ 以下
光化学オキシダント (O _x)	×	×	1 時間値が 0.06ppm 以下

※環境基準達成状況：○達成、×未達成

イ 汚染物質（年平均値）の推移



(測定局：出雲保健所)



(測定局：出雲保健所)

※光化学オキシダントは、昼間(5 時～20 時)の 1 時間値を年平均した値

出典：島根県の大気汚染測定結果報告書

(2) 水環境

島根県が公表した平成 27 年度公共用水域及び地下水水質測定結果のうち、環境基準の類型があてはめられている市内の 4 河川、2 湖沼、1 海域の環境基準達成状況は、下表のとおりです。

河川の水質は、下水道の整備や合併処理浄化槽の普及に伴って改善されてきており、近年は概ね良好な状況で推移し、平成 27 年度は全ての河川において、環境基準を達成しました。

また、宍道湖、神西湖の 2 湖沼は、環境基準を達成していませんが、近年、COD75% 値は、ほぼ横ばいでいたが、平成 26 年度からは若干の改善がみられます。

河川の水域別 BOD 環境基準達成状況(BOD75%値の経年変化)

水域名		環境基準			H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
		類型	基準値	地点数									
斐伊川	本川	AA	1mg/l以下	2	0.7	0.6	0.6	0.8	0.6	0.6	0.7	0.7	0.7
神戸川	上流	AA	1mg/l以下	2	0.6	0.8	1.0	1.0	0.8	1.2	1.2	1.2	1.0
	下流	A	2mg/l以下	2	1.0	0.8	1.0	0.9	0.6	1.1	0.6	0.8	1.0
平田船川	上流	A	2mg/l以下	1	1.2	1.4	1.6	1.2	1.2	1.8	1.7	1.5	1.4
	下流	A	2mg/l以下	1	2.0	1.9	1.7	1.3	1.2	2.4	1.8	1.6	1.4
湯谷川	上流	A	2mg/l以下	1	1.2	1.1	1.2	0.8	1.0	1.5	1.1	1.3	1.3
	下流	A	2mg/l以下	1	1.4	1.2	1.2	1.0	1.0	1.5	1.2	1.2	1.2

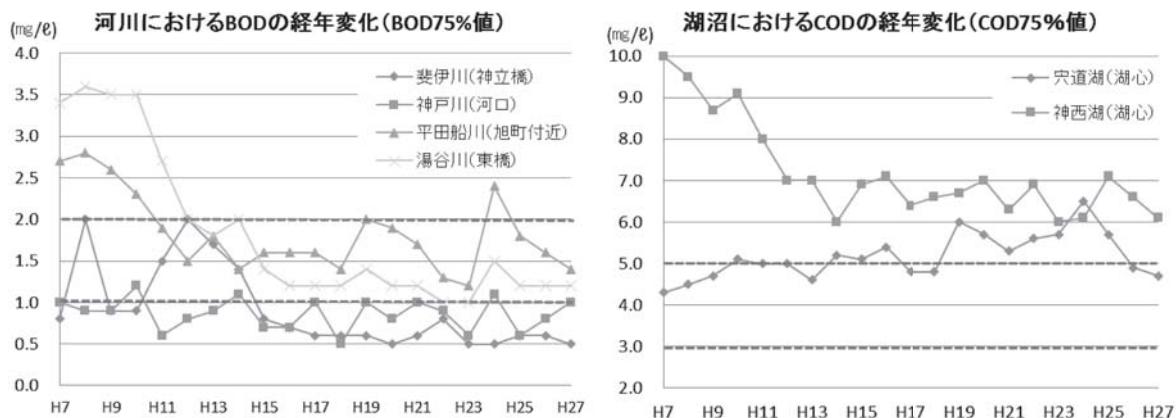
湖沼・海域の水域別 COD 環境基準達成状況(COD75%値の経年変化)

水域名		環境基準			H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
		類型	基準値	地点数									
宍道湖		A	3mg/l以下	5	6.2	6.1	5.5	5.9	6.1	6.5	5.7	4.9	4.7
神西湖		B	5mg/l以下	2	6.7	7.0	6.3	6.9	6.0	6.1	7.1	6.6	6.1
おわし海水浴場		A	2mg/l以下	1	1.8	1.7	1.8	1.8	1.6	1.6	1.6	1.4	1.8

出典：島根県公共用水及び地下水水質測定結果の概要

※表中の経年変化数値について、各水域において環境基準地点が複数ある場合は、その中で最も高い数値の地点の値を記載。

また、網掛は基準達成したもの。(経年変化数値の単位はすべて mg/l)



※斐伊川の環境基準値：1mg/l以下

神戸川（下流）、平田船川、湯谷川の環境基準値：2mg/l以下

※宍道湖の環境基準：3mg/l以下

神西湖の環境基準：5mg/l以下

(3) 騒音

自動車騒音については、「自動車騒音常時監視 5 年計画（平成 24 年策定）」に基づき調査を実施しています。平成 27 年度は、市内の主要な幹線道路に面する 3 区間（評価対象 381 戸）の評価を行いました。

幹線道路の環境基準達成状況(平成 27 年度)

路線名	評価区間始点～終点	評価対象戸数	環境基準達成戸数	環境基準達成率
一般国道 9 号	斐川町直江～斐川町学頭	123 戸	123 戸	100%
一般国道 184 号・出雲大社線	今市町～高松町	122 戸	122 戸	100%
矢尾今市線	今市町～高岡町	136 戸	136 戸	100%

(4) ダイオキシン類

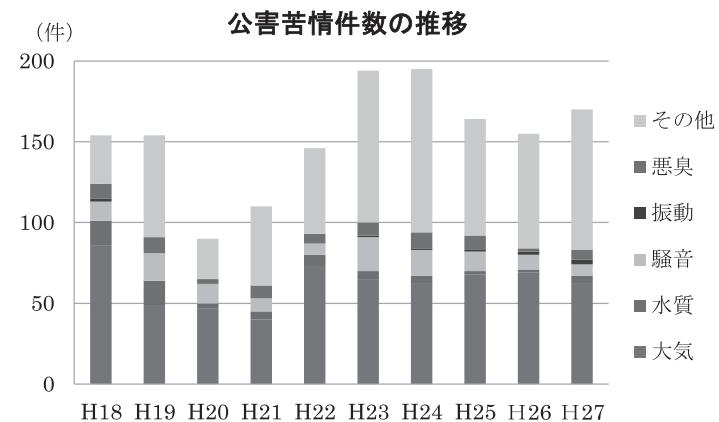
ダイオキシン類は、微量でも人の健康に有害な影響を及ぼすおそれのある物質で、出雲保健所がダイオキシン類対策特別措置法に基づく常時監視を行っています。

平成 27 年度は、大気 1 地点、水質（地下水）2 地点、土壤 1 か所で調査を行い、すべての地点で環境基準を達成しました。

(5) 公害苦情

平成 27 年度に受理した公害苦情の件数は、前年度に比べて 15 件増加し 170 件でした。

そのうち、廃棄物の野焼き等大気の苦情が 62 件で全体の 36.5% を占めており、市街地や新興住宅地周辺での苦情が増えています。



2 自然環境

(1) 水生生物

平成 13 年度から公益財団法人ホシザキグリーン財団に委託し「希少水生生物、外来水生生物、希少種の鳥類等についての生息調査（出雲市自然環境調査研究事業）」を実施しています。

平成 27 年度は、平田地域のため池 20 地点で調査を行いました。

調査で確認された種	
水性動物調査	甲殻類 1 種（ミナミヌマエビ）、昆虫 14 種（クロゲンゴロウ、ヒメミズカマキリなど）、魚類 2 種（ミナミメダカ、シンジコハゼ）、両生類 2 種（アカハライモリ、トノサマガエル）
水性植物調査	ミズオオバコ
希少種	ジュンサイ、イヌタヌキイモ

(2) 外来生物

ヌートリア、アライグマやブラックバス、ミドリガメなどの外来生物は、人間の活動に伴い持ち込まれた生物で、自然や地域固有の動植物に大きな脅威を与えています。

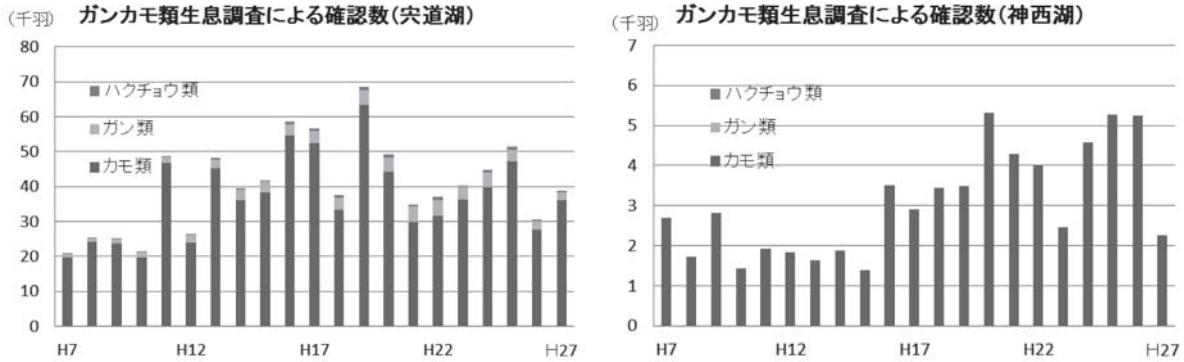
環境省では外来生物のうち、海外起源で人体や生活環境等に大きな悪影響を及ぼすおそれのある生物を、「特定外来生物」とし、飼養・栽培・保管・運搬等を規制しています。その特定外来生物である「セアカゴケグモ」が平成 27 年 7 月、出雲市内で初めて発見されました。市では、それらによる被害を防ぐため、ホームページ等で注意喚起を行っています。

(3) 渡り鳥

島根県では、水鳥の保護対策の基礎資料とするため、毎年ガンカモ類の生息調査（宍道湖、神西湖など）や一斉渡来状況調査を実施しています。

宍道湖は、全国でも有数の冬鳥の渡来地で、「ラムサール条約湿地」に登録されています。ガンカモ類は、近年減少傾向にありましたが、平成 27 年は前年に比べ増加しました。

一方、神西湖においては、平成 27 年は大きく減少しました。



(4) 野生鳥獣の保護管理

野生鳥獣の保護管理を図るため、傷病野生鳥獣の救護やシカの生息頭数調査等を行っています。一方では、自然環境や農作物等に被害を及ぼす有害鳥獣の捕獲や防護施設の設置に対する支援を行っています。

3 快適環境

(1) 公園緑地

出雲市の公園緑地(平成28年3月31日現在)

地 域	都市公園 (104か所)	普通公園 (86か所)	その他公園 (17か所)	計
出 雲	890,700m ²	108,613m ²	163,240m ²	1,162,553m ²
平 田	289,025m ²	15,608m ²	88,092m ²	392,725m ²
佐 田		2,572m ²	105,152m ²	107,724m ²
多 伎		201,619m ²	56,273m ²	257,892m ²
湖 陵	113,260m ²	465m ²		113,725m ²
大 社	327,400m ²	1,314m ²	45,333m ²	374,047m ²
斐 川	198,756m ²	9,416m ²	312,908m ²	521,080m ²
計	1,819,141m ²	339,607m ²	770,998m ²	2,929,746m ²

(2) 築地松景観

出雲平野の自然と文化に根ざした築地松の織りなす景観は、出雲地方独特の景観であり、全国に誇れる本市の貴重な資産です。

しかし、近年は松くい虫の被害や築地松を剪定する職人の不足、そして生活様式の変化によって、築地松景観が失われてきています。

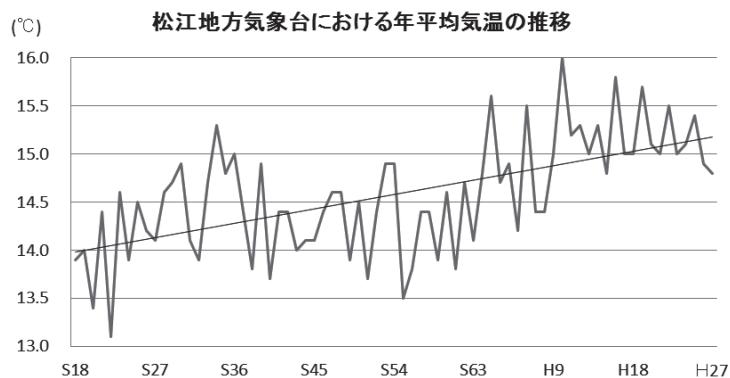
このため、築地松景観保全対策推進協議会では、防除対策を強化しています。

4 地球環境

(1) 年平均気温の推移

松江地方気象台における平成 27 年の年平均気温は 14.8℃でした。

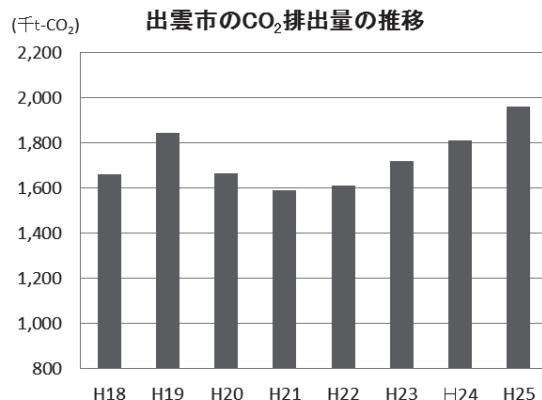
昭和 18 年からこれまでの平均気温の推移を見ると、ここ 70 数年の間に 1.0℃上昇しています。



(2) 二酸化炭素 (CO₂) 排出量の推移

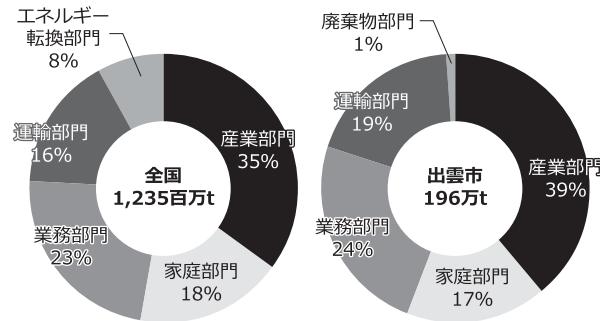
二酸化炭素 (CO₂) は、地球温暖化の要因となる「温室効果ガス」の 90%以上を占め、その排出量は、地球温暖化対策の目標指標となっています。

出雲市の平成 25 年度の CO₂ 排出量は、出雲市地域省エネルギービジョンで定めた基準年度(平成 18 年度)に比べると、約 8.4% (約 152 千 t-CO₂) 増となりました。



※環境省 HP 「部門別 CO₂ 排出量の現況推計」より作成

部門別CO₂排出量の割合 (平成25年度)



※全国の排出量は環境省資料より作成

5 循環型社会の構築

循環型社会の構築を図るためにには、ごみの排出抑制・再生利用や適正処理の推進を市民、事業所、行政が連携して取り組まなければなりません。

平成 27 年度の出雲市のごみ総排出量は、60,961 t でした。

これは、市民 1 人が 1 日に約 955 g、1 年間で約 348 kg を排出したことになります。

平成 23 年度以降、可燃ごみの排出量は、増加傾向が続いていましたが、平成 27 年度はわずかに減少に転じました。

出雲市のごみ排出量の推移

(単位 : t)

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
可燃ごみ	46,506	45,891	45,213	44,588	45,910	46,504	47,465	48,167	47,816
不燃ごみ	7,681	6,682	7,153	7,064	7,054	6,348	6,665	6,704	6,794
資源ごみ	11,020	10,383	10,044	9,953	9,668	8,912	7,697	6,894	6,351
総排出量	65,207	62,956	62,410	61,605	62,632	61,764	61,827	61,765	60,961

※火災・災害ごみを除く。

III 出雲市の環境への取組

ここでは、数値目標の達成状況と平成27年度に取組んだ主な事業の実施状況について報告します。

【評価の判断基準】

- ◎：中間目標値を達成した。
- ：中間目標値を達成できなかつたが、基準値より改善した。
- △：基準値より改善したが、前年度より悪くなつた。
- ×：基準値から悪くなつた。
- (ー)：情勢の変化等により、従来の評価ができない。

1 澄んだ空気ときれいな水に潤い 健康に暮らせるまち

1－1 大気環境の保全

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	中間目標値 (H29年度)	実績値 (H27年度)	平成27年度 評価
1	大気汚染測定値(SPM) (環境基準 0.10mg/m ³ 以下)	0.015mg/m ³ (H22年度)	環境基準値内	環境基準値内 (H26年度)	◎
2	市公用車へのクリーンエネルギー自動車導入率	1.5%	10.6%	2.8%	○ 公用車更新時には、クリーンエネルギー自動車の使用が可能かどうか検討し、可能な場合には導入に努める。

(2) 主な取組

	事業名	取組内容
1	一畑電車活性化事業	一畑電車沿線地域対策協議会（県、松江市、出雲市）を通じ、利便性の向上を図った。 ・通勤定期券購入助成580枚、通勤定期工コ電定期券購入助成209枚、シルバーカー切符6,023枚
2	公共交通機関利用促進啓発事業	県内各市と共同でH27年11月1日より、バスネット（路線バス、鉄道等の乗換案内システム）の運用を開始した。
3	山陰本線鉄道利用促進事業	JRの活性化事業等を実施する「島根県鉄道整備連絡調整協議会」を通じ、利用促進を図った。 ・JRダイヤポケット時刻表の作成・配布 10,000冊
4	ばい煙、粉じん、野外等での不法なごみの焼却の監視、指導	ばい煙、粉じん、ごみの野外焼却に関する苦情対応として、発生人に指導を行つた。 ・苦情対応件数62件
5	佐田総合資源リサイクル施設管理事業	畜産農家から回収した糞尿を利用し製造した堆肥を稻作農家等に販売し、耕畜連携、資源循環を図つた。 ・回収農家数26戸 ・回収量7,848t

1－2 水環境の保全

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	中間目標値 (H29年度)	実績値 (H27年度)	平成27年度 評価
1	類型指定河川水質の環境基準達成率（斐伊川及び神戸川上流：河川AA類型、BOD 1mg/l以下、神戸川下流、平田船川及び湯谷川：河川A類型、BOD 2mg/l以下）	100%	100%	100%	◎
2	類型未指定河川水質の市基準達成率（BOD市独自基準 5mg/l以下）	100%	100%	100%	◎
3	湖沼水質の環境基準達成率（宍道湖：湖沼A類型、COD 3mg/l以下、神西湖：湖沼B類型、COD 5mg/l以下）	0%	100%	0%	○
		両湖ともに昨年度に引き続き水質改善はみられたものの、環境基準は達成できなかった。湖沼等の水質改善には今後も広域的かつ長期的な取組が必要である。			
4	海域水質（海水浴場）の市基準達成率（COD市独自基準 2mg/l以下）	100%	100%	100%	◎
5	廃食用油回収量	47,466ℓ	47,500ℓ	20,819ℓ	(一)
		生活スタイルの変化や健康志向により、家庭での油類を消費することが少なくなったことにより、回収量が減少したと考えられる。			
6	汚水処理人口普及率	77.8%	83.8%	85.4%	◎
7	水洗化率（接続率）	86.6%	88.0%	89.8%	◎

(2) 主な取組

	事業名	取組内容
1	公共下水道、農業集落排水、漁業集落排水、小規模集合排水、合併処理浄化槽などの整備	汚水処理施設の整備促進を図った。 ・公共下水道整備面積 33ha ・阿宮地区農業集落排水事業 実施中 ・市設置合併処理浄化槽 54基 ・個人設置合併処理浄化槽 203基
2	水質浄化、排水などに関する啓発活動	市広報に下水道事業について掲載し、普及啓発活動を行った。また、下水道未接続世帯に対し、文書送付や戸別訪問を行い、早期接続を促進した。
3	油の流出などの水質事故の未然防止と発生時の迅速な対応	河川で機械を使用する際の油類の取扱について注意喚起・指導を行い、水質事故の未然防止を図った。 交通事故等により自動車から油類が用水路等に流出した際には、油吸着材やオイルフェンス・マット等を使用し、二次被害発生の防止に努めた。
4	生き物調査	身近な自然の動植物調査や、校内で動植物を飼育栽培したりするなど、各学校で地域にあわせた特色のある活動を行った。
5	河川や湖に親しむ体験活動	学校の近くにある河川や湖に出かけて、動植物の生態調査や水質調査など、川や湖に親しむ活動を行った。
6	河川や湖の清掃活動の支援	町内会、自治会及び団体がボランティア活動で行う河川の除草、浚渫活動（ふれあい愛護活動）を支援した。
7	水産資源の保護	アカアマダイの稚魚の栽培漁業を実施。7cm程度までに成長した稚魚約5,100尾を、小伊津近海の水深40m付近の海域へ放流した。 また、漁業協同組合JFしまね大社支所・平田支所が実施する資源回復事業（アワビの種苗放流等）に対し助成した。
8	漁業の良好な環境の保全	水産多面的機能発揮対策事業において、宍道湖流域保全協議会の活動（湖底環境改善、湖内清掃）、平田海域保全協議会の活動（漂流漂着ごみの回収）を確認した。

	事業名	取組内容
9	宍道湖一斉清掃	6月14日、平田・斐川両地域の宍道湖沿岸において一斉清掃を実施。 ・参加者1,849人
10	宍道湖水環境改善協議会	国土交通省出雲河川事務所、島根県、松江市、出雲市の4団体で設置する「宍道湖水環境改善協議会」では、宍道湖の一斉清掃のほか、ヨシ刈り取り事業等を実施した。
11	斐伊川水系水源の森づくり事業	斐伊川水系の上下流自治体が締結している「森林整備協定」に基づき、上流自治体が実施した造林事業に対し、負担金を支出することにより下流域の水資源の確保や水系水質の保全を図った。
12	斐伊川流域荒廃林等再生整備基金協定事業	斐伊川流域林業活性化センター及び斐伊川流域の上・下流自治体が締結する「荒廃林等再生整備基金協定」に基づき、各自治体からの負担金を基金として積み立て、上・下流域の荒廃森林における造林事業を実施することで森林再生を図った。
13	中海・宍道湖観察会（野鳥・自然）	・冬の野鳥観察会・2月27日・参加者34名 ・春の自然観察会・3月25日・参加者23名 ・主催中海・宍道湖・大山圏域市長会（構成市：松江市、出雲市、米子市、安来市、境港市）

1－3 健康に暮らせる環境の保全

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	中間目標値 (H29年度)	実績値 (H27年度)	平成27年度 評価
1	自動車騒音の環境基準達成率	100%	100%	100%	◎
2	航空機騒音の環境基準達成率	100% (H22年度)	100%	100%	◎
3	ダイオキシン類の環境基準達成率	100% (H22年度)	100%	100% (H26年度)	◎

(2) 主な取組

	事業名	取組内容
1	騒音、振動の発生源への監視、指導	騒音・振動規制法に基づき、規制基準を超えてる場合は、改善勧告や改善命令を行うこととしている。平成27年度は改善勧告等の事例はなかった。 ・苦情対応件数10件
2	航空機騒音対策	県では、出雲空港周辺地域で、昭和60年から航空機騒音調査を行っている。平成27年度の測定結果は環境基準値（Lden 62dB以下）内であった。
3	夜間花火規制条例による規制	条例により公共の場所では夜10時以降の花火を禁止している。夜間花火禁止区域は、看板、ホームページ等により周知を行っている。
4	悪臭発生源の監視、指導	悪臭防止法に基づき、事業活動に伴って発生する悪臭を規制する区域が定められている。平成27年度において改善勧告等の事例はなかった。 ・苦情対応件数は6件
5	アスベストに関する情報提供及び適正処理の推進	ホームページで、アスベストに関する情報の提供を行った。また、建設リサイクル法による建築物解体工事の届出書を受理しており、アスベスト等の有害物質の除去を伴う旨の記載があった場合は、適切に処理するよう指導した。
6	犬のしつけ方教室	県と島根県動物保護管理協会、市の共催で、犬の正しい飼い方・しつけ方の講習会を開催した。参加者37組、62名
7	空地などの管理指導	条例により市民等は住宅周辺の空地について、除草・清掃をおこない、常に清潔な維持管理に努めるよう定められている。平成27年度は適正な管理を指導した。

2 人と自然がふれあい ともに生きるまち

2-1 野生動植物との共生

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	中間目標値 (H29年度)	実績値 (H27年度)	平成27年度 評価
1	ゲンジボタルの生息が確認された地区の割合	49%	51%	70%	◎

(2) 主な取組

	事業名	取組内容
1	トキによるまちづくり事業	トキのキャラクター「ミコトッキー」がトキの保護等について説明する「となりのミコトッキー」を市広報に毎月掲載した。
2	ウミネコ・モリアオガエル調査	「ウミネコ」と「モリアオガエル」の産卵状況調査を実施。ウミネコ「ヒナの数」797羽（30年平均 781羽）、ウミネコ「未ふ化の卵数」129個（30年平均 374個）モリアオガエル卵塊数566個（H13～26平均 718個）、産卵状況（卵塊数）は、産卵のピークが過ぎていたため平均を大幅に下回ったが、生息環境に大きな変化はなかった。

2-2 豊かな自然とのふれあい

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	中間目標値 (H29年度)	実績値 (H27年度)	平成27年度 評価
1	市主催の自然体験事業の参加者数	10,462人	10,500人	13,750人	◎
2	市有自然体験施設の利用者数	118,655人	124,700人	103,598人	×
		利用者増につながるよう魅力的なイベントの開催等を行う一方で、今後も様々なツールを積極的に活用し、情報発信に努めていく。			
3	グリーンツーリズムの受入団体数	6団体	7団体	9団体	◎

(2) 主な取組

	事業名	取組内容
1	自然歩道及び自然公園管理	地域住民の協力のもと、自然公園内のパトロールや草刈り、ごみ拾いなどを行い、景観の保護及び管理を行った。
2	開発事業などにおける事業者への助言	都市計画区域内の3,000m ² 以上または区域外の10,000m ² 以上の開発行為について、開発行為の事業者に対し、環境面から意見書を提出した。提出件数12件
3	観光施設等自然体験施設運営事業	日田森林公園、わかあゆの里、うさぎ森林公園、見晴らしの丘公園、伊秩やすらぎの森及び水辺、八雲風穴、天王山キャンプ場等の管理を通して、自然にふれあうことのできるこれらの施設を広く周知することで自然体験の推進に努めた。
4	風の子楽習館	・自然観察会、自然体験イベント等 19回、体験学習（木の実を使った小物作り等）187回、受講者数計 9,677人
5	湊原体験学習センター	・体験学習等47回 ・受講者数計 1,169人
6	グリーンツーリズム・エコツーリズムの推進	グリーンツーリズムやエコツーリズムの紹介を市ホームページ等で行った。

2-3 森林と農地の保全と再生

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	中間目標値 (H29年度)	実績値 (H27年度)	平成27年度 評価
1	森林整備面積（累計）	40ha	150ha	122ha	○
		各種支援事業の活用により、今後も森林整備を進める。			
2	間伐等実施面積（累計）	420ha	700ha	885ha	◎
3	市産材取扱量	2,700m ³	3,600m ³	26,463m ³	◎
4	新規林業就業者数（累計）	1人	10人	7人	○
		各種支援事業を活用し、今後も林業就業者を増加させる。			
5	アグリビジネススクール卒業者数（累計）	251人	491人	372人	○
		着実に増加してきている。一層の人材確保に努める。			
6	学校給食における地場産品の利用割合	35%	40%	47%	◎

(2) 主な取組

重点プロジェクト1) 森林を育てる取組		
	事業名	取組内容
1	森林整備地域活動支援交付金事業	林業事業体等が行う、森林経営計画作成のための森林情報の収集や森林調査等の活動経費に 対して支援を行った。 ・対象者 1事業体
2	造林事業	市有林及び市行造林において、植栽木の健全な生長を促進するために、間伐を実施した。ま た、森林資源の利活用を目的として、間伐材の搬出を行った。 ・間伐（搬出） 2団地 10.50ha ・間伐（搬出以外） 11団地 24.52ha
3	21世紀出雲林業フロンティア・ファイティ ング・ファンド事業	①市産材利用の推進 (ア) 市産材の出荷促進のため、出雲木材市場への原木出荷に係る手数料の一部を助成 (イ) 市産材利用促進のため、構造材に市産材を使用した新築住宅に対し、県産材使用補助 金（島根県木材協会）に協調して上乗せ助成 ②森林整備の推進 (ア) 保育（下刈り、枝打ち、除伐、間伐）に対する助成 (イ) 針葉樹や広葉樹の植樹事業の推進
4	山林の多面的機能回復の推進	地域住民が協力して里山の保全や資源の利用に取り組む活動を支援した。 ・活動団体数15団体 ・活動面積 124ha ・活動内容 侵入竹の除去、雑草木の刈払、炭焼き体験など
5	出雲市みどりの担い手育成事業	森林整備法人又は森林組合法に基づく法人が採用した作業員の健康保険、厚生年金及び中小 企業退職金共済の事業主負担分の補助を行った。 ・補助対象者数 4名
6	緑の募金活動	森林を守り育てる運動のひとつとして、町内会を通じて緑の募金活動を行った。 ・募金活動主催 公益社団法人島根県緑化推進委員会（出雲市は正会員） ・募金時期5月～7月・募金額 6,985,821円（うち家庭募金6,743,743円）
7	緑の募金公募事業	緑の募金を資金とした「緑の募金公募事業」（公益社団法人島根県緑化推進委員会）を活用 し、地域住民による森林整備活動等への支援を行った。 ・助成金額 上限50万円 ・採択事業数 市内団体12件 ・事業内容 松枯れ跡地への植樹、雑木林の整備、広場や公園への植樹、間伐体験等

重点プロジェクト1) 森林を育てる取組		
	事業名	取組内容
8	松くい虫被害対策事業	松くい虫防除計画区域内の健全なマツに対し、防除薬剤の樹幹注入と被害木の伐倒駆除等を行った。 ・樹幹注入11,540本、特別伐倒駆除175本、伐倒駆除（くん蒸）1,797本
9	ナラ枯れ被害対策事業	市内のナラ枯れ被害木に対し、伐倒駆除等を行った。 ・伐倒駆除（くん蒸）79本
10	ふるさとの森再生事業	松くい虫被害によって全山が松枯れしていた神西地区の市有林で、しまね森林活動サポートセンター（島根CO ₂ 吸収認証制度）からの助成を受けて、枯れ松の伐採と、広葉樹の植栽等を行った。 ・森林整備面積 20.4ha（うち植栽面積11.1ha）
11	みんなでつくる出雲の森事業	間伐等による森林の適正な管理と、間伐材のチップ燃料としての利用促進を目的として、市民参加により林地残材を搬出するための補助事業を行った。 ・補助金額 1トンあたり3,000円

【その他の取組】

	事業名	取組内容
1	人・農地プラン推進事業	「人・農地プラン」を策定し、認定農業者や集落営農組織を中心とした農地集積計画を策定し、農地集積を図った。
2	環境保全型農業直接支払交付金	化学肥料、農薬を5割以上低減する取組とセットで、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動に取り組む農業者団体に対し支援した。
3	集落営農事業	集落営農組織の新規設立や法人化を支援し、これら組織による農地の保全、用排水路等の整備を通じて、水環境の保全を図った。 ・集落営農組織新規設立 2団体 ・集落営農組織の法人化 11団体
4	耕作放棄地再生事業	耕作放棄地を引き受けた作物生産をする方に対して、再生作業、土づくり・播種・施設整備等の取組を総合的に支援し、農地保全を図った。4圃場、計0.74haの耕作放棄地を再生することができた。
5	アグリビジネススクール事業	ぶどうチャレンジ講座、柿チャレンジ講座、いちじくチャレンジ講座、野菜チャレンジ講座の4講座を開講し、36人受講、27人が講座を修了し、うち8人が新規就農した。 ・講座開設期間：平成26年12月～平成27年12月
6	中山間地域等直接支払事業	耕作放棄地の増加が懸念されている中山間地域等において、農業生産の維持を図りながら多面的機能を確保するため、農業者等による協定を締結し、農業生産活動を継続しておこなう集落等を支援した。 ・平成27年度末現在の集落協定数 71集落
7	県営中山間地域総合整備事業	佐田地区において、県営事業を活用し、農業用排水路、暗渠排水、ほ場等の整備を推進した。
8	地産地消促進による学校給食への地場産品の提供	毎月1回「おいしい出雲の一日」を設定し、地元産食材を使用した給食を提供した。また、6月に「いつも給食Week」を設けたほか、11月の「しまねふるさと給食月間」の期間中、地産地消の推進に取組んだ。

3 悠久の歴史が息づく 美観と快適空間のまち

3－1 景観保全と緑地の確保

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	中間目標値 (H29年度)	実績値 (H27年度)	平成27年度 評価
1	一人当たりの公園面積	16.7m ²	16.8m ²	17.0m ²	◎

(2) 主な取組

	事業名	取組内容
1	大規模建築物等の景観指導	出雲市内で一定規模以上の建築工事等を実施する場合や景観形成地域内における建築工事等の行為について、事前届出により、外観や緑化等に関して指導、助言を行った。 ・ 大規模行為届出 163件 ・ 景観形成地域の届出 24件 ・ 国の機関等の通知 12件
2	建築物の修景助成	良好な都市景観及び調和の取れた街並みの形成を促進するため、指定した地域において修景助成を行った。 ・ 大社神門通り地区 3件
3	屋外広告物の規制・指導	島根県屋外広告物条例に基づき、許可委任事務を行った。 ・ 新規237件、更新分626件
4	街路事業	快適で良好な街並み景観を形成するため、街路整備に併せ、ケヤキ、クスノキ、シバザクラの植栽を行った。あわせて、街路樹の維持管理を行った。
5	築地松景観保全の支援	築地松景観保全対策推進協議会（島根県、出雲市）において、築地松の維持管理に要する経費を助成した。 ・ 納定 156件 伐倒・補植31件 地上散布 146件 樹幹注入 29件
6	築地松景観ライトアップ等啓発活動	築地松景観ライトアップを11月21日・22日に実施 築地松コミュニケーションを作成・配付（1回／年） 築地松 P Rパンフレットを作成・配付
7	学校や幼稚園等での花壇づくり	各学校で野菜や花の栽培を積極的に行い、花を育てて地域の施設にプレゼントしたり、野菜を調理して地域の方々と食事する学校やグリーンカーテンを栽培する学校もあった。
8	公園施設のリフレッシュ整備事業	老朽化した公園施設及び遊具の改修を行った。 ・ 手引ヶ丘、真幸ヶ丘、朝倉等の各公園遊具改修工事 ・ 姉谷児童、大池等のトイレの水洗化工事

3-2 環境美化の推進

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	中間目標値 (H29年度)	実績値 (H27年度)	平成27年度 評価
1	市主催の環境啓発イベント（ポイ捨て一掃大作戦、不法投棄パトロールなど）の参加者数	9,618人	13,000人	14,827人	◎
2	海岸等一斉清掃参加者数	10,013人	11,000人	10,140人	○
3	美化サポートクラブ登録団体数	29団体	40団体	32団体	○

一斉清掃は、環境意識の高揚に効果的であり、今後も広報等により参加者の増加を図る。

自主的に美化活動を実施している企業・団体にも情報提供を行い、加入促進を図っていく。

(2) 主な取組

	事業名	取組内容
1	ポイ捨て・不法投棄対策の推進	啓発看板を作成し、設置を希望する市民に配付した。また、出雲市ポイ捨て禁止推進協議会では、11月11日に斐川地域内で「不法投棄防止パトロール」を実施し、不法投棄の実態を把握するとともに、警察等関係機関を交え、対策について意見交換した。
2	ポイ捨て禁止キャンペーン	出雲市ポイ捨て禁止推進協議会では、ポイ捨て禁止とマナーの向上を呼びかけるため、「ポイ捨て禁止キャンペーン」を実施した。 ・ 6月30日／大社町神門通り34名参加 ・8月22日／出雲縁結び空港27名参加 ・ 10月10日／夢フェスタinいいずも会場27名参加 ・11月25日／道の駅キララ多伎30名参加

事業名		取組内容
3	「市民一斉クリーンデー」や「ポイ捨て一掃大作戦」の実施	出雲市ポイ捨て禁止推進協議会では、6月第1日曜日を「市民一斉クリーンデー」、10月を「出雲市ポイ捨て禁止月間」としている。「市民一斉クリーンデー」や「出雲市18万人ポイ捨て一掃大作戦」への参加を、市広報を通じ広く市民に呼びかけた。
4	美化サポートクラブ	美化活動や啓発活動をボランティアとして協力する市民団体や事業所を募集し、「美化サポートクラブ」として認定した。認定団体に対し、傷害保険への加入等の支援を行った。 ・ 認定数 32団体 (1,000名)
5	「ポイ禁だより」の発行	市広報に「ポイ禁だより」を掲載し、ポイ捨て禁止キャンペーンや不法投棄防止パトロールの状況を紹介するとともに、ポイ捨て、不法投棄の防止を呼びかけた。

4 地球を考え 地域から実践するまち

4-1 地球温暖化防止の取組

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	中間目標値 (H29年度)	実績値 (H27年度)	平成27年度 評価
1	市の事務及び事業から発生するCO ₂ 排出量	8,616t-CO ₂ (H22年度)	7,997t-CO ₂	7,528t-CO ₂	◎
2	市有施設（事務部門）の電気使用量	10,935,200kWh (H22年度)	10,115,983kWh	9,953,540kWh	◎
3	L E D 防犯灯の設置基數	401基	1,888基	728基	○
		修繕、移設等にあわせて L E D 化を図る。			
4	エコライフチャレンジしまね（環境家計簿）登録世帯数	884世帯	1,000世帯	904世帯	○
		女性団体中心の取組みになっている。今後も P R に努める。			
5	学校版エコライフチャレンジしまね登録小中学校割合	100%	100%	100%	◎
6	ISO14001、エコアクション21認証取得事業所数	34事業所	40事業所	45事業所	◎
7	再生可能エネルギー導入市有施設数	9施設	14施設	13施設	○
		中間目標は達成できなかったが、昨年度から1施設増加した。今後も施設の整備にあわせ積極的な導入に努める。			
8	再生可能エネルギー普及啓発事業への参加者数	0人	100人	160人	◎

(2) 主な取組

重点プロジェクト2) 温室効果ガス抑制への取組		
	事業名	取組内容
1	電気自動車急速充電スタンドの整備	電気自動車の急速充電スタンドを道の駅大社ご縁広場、道の駅キララ多伎及び道の駅湯の川の3か所に整備し、環境に優しい電気自動車の普及の促進を図る。
2	市の事務及び事業から発生するCO ₂ 排出量、電気使用量の削減	「出雲市本府省エネルギー行動計画」に基づき、本府舎の各種空調設備の運転開始時間をずらし、使用最大電力のピーク時間帯を分散するとともに、空調の温度設定範囲を制限することや、執務室や会議室等の蛍光灯を間引くことにより、電力消費量を抑えた。
3	防犯灯のLED化	市設置防犯灯について、新設防犯灯26灯すべてをLED防犯灯で設置するとともに、従来の蛍光灯タイプの防犯灯73灯をLED防犯灯へ更新した。 町内会等設置防犯灯については、LED防犯灯349灯に対して補助した。

重点プロジェクト2) 温室効果ガス抑制への取組		
	事業名	取組内容
4	エコドライブ街頭啓発	11月のエコドライブ推進月間のキックオフイベントとして、出雲産業フェア会場（出雲ドーム）にてパンフレットを配布し、約500名の来場者にエコドライブを呼びかけた。
5	「省エネ講師派遣」による講座開催	家庭や地域等において、省エネ活動を積極的に取り組んでもらうため、出雲市環境保全連合会各支部と連携して「省エネ講師派遣」による講座を開催した。・参加者数 27名
6	出雲産業フェアへの出展	10月31日、11月1日、出雲ドームで開催された「出雲産業フェア」に出展し、マイバッグ、ボカシ作りの体験講座、ガーデンシュレッダーの実演や、省エネ・3Rをテーマとした展示を行った。・参加者数 約375名
7	ライトダウンキャンペーン街頭啓発	6月22日、ゆめタウン出雲にて「CO2削減／ライトダウンキャンペーン」の啓発活動を実施し、来店者に夏の省エネとライトダウンへの協力を呼びかけた。

重点プロジェクト3) 再生可能エネルギーの普及と利用促進		
	事業名	取組内容
1	再生可能エネルギー設備の導入	佐田町ゆかり館の木質チップボイラー（出力160kW）に使用する燃料チップを市内業者から購入した。 ・チップ使用量 約502t ・灯油使用量 約9割の削減効果（平成24年度比）
2	再生可能エネルギー普及啓発事業	市内の新エネルギー関連施設見学会や小学生を対象としたエネルギー学習講座などを開催した。 ①新エネルギー関連施設見学会 ・風力発電所とメガソーラー 日時：6月13日 ・参加者数：33名 ・木質バイオマス発電 日時：11月7日 ・参加者数 35名 ②ソーラー環境教室 ・日時：11月13日 ・場所：市立湖陵小学校・参加者：45名（小学生42名、教員3名） ③講演会「エネルギーの未来と水素活用社会（時事通信社と共に）」 ・日時 9月28日 ・講師 東京理科大学大学院教授 橋川武郎氏 ・講演内容 今後のエネルギーに関して、水素活用社会実現への課題と出雲市への提案等について
3	広報いづもへの記事掲載	「再生可能エネルギー施設が次々生まれます!!」を掲載し、メガソーラー、バイオマス発電所の新設等を紹介。「住宅用太陽光発電によるCO2排出削減をさらなる削減につなげます!!」を掲載し、神話の國出雲さんさん俱楽部の取組を紹介した。
4	再生可能エネルギー教室の開催	再生可能エネルギー全般についての学習及び再生可能エネルギーに関する実験を含めたワークショップを行った。 ・実施校：多伎中学校ほか5校、参加者148名 ・講師：東和環境科学株式会社 山陰営業所 理事 鷹村 憲司氏（県が委託）
5	神話の國出雲さんさん俱楽部の取組 (J-クレジット制度)	住宅用太陽光発電システムを設置した市民の一部に入会していただき、発電した電気に付随する環境価値をとりまとめてクレジット化し、CO2削減に積極的な企業等に売却するための取組を行った。 ・平成27年度未会員数：642名 ・平成27年度クレジット認定量：486t（平成26年度の発電に伴うもの） ・平成27年度クレジット販売量 200t-CO2

4－2 地球規模での環境問題への取組

(1) 主な取組

	事業名	取組内容
1	フロン対策	市のホームページ等に家電リサイクル法などの詳細を掲載し周知した。また、フロン排出抑制法の改正などの周知を図った。
2	海岸漂着ごみ回収事業	市民ボランティアによる海岸清掃活動の啓発を行う一方で、集められた海岸漂着ごみの回収を行った。また、海岸管理者である国、県に働きかけを実施した。

5 「もったいない」の心で築く 循環型のまち

5-1 廃棄物対策と資源循環の推進

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	中間目標値 (H29年度)	実績値 (H27年度)	平成27年度 評価
1	ごみ排出量	62,632t	60,117t	60,961t	○
		目標値に近づきつつある。取組の推進と定着化が必要である。			
2	ごみ再資源化量	12,239t	13,543t	9,123t	(一)
		民間のリサイクル収集も広がりつつあり、市の公用収集における再資源化量は減少傾向にある。			
3	ごみ最終処分量	9,104t	8,539t	8,237t	◎
4	リサイクル団体回収補助登録団体数	90団体	100団体	92団体	△
		民間リサイクル収集の利便性が向上したことにより、団体回収に取り組む団体が伸び悩んでいる。			

(2) 主な取組

重点プロジェクト4) ごみ減量と再資源化の推進		
	事業名	取組内容
1	ガーデンシュレッダー貸出事業	家庭で利用できる剪定枝木粉碎機（5台）を市民へ貸し出し、チップ化した剪定枝を堆肥や土壤改良材として利用してもらうことで、ごみの減量化を図った。 貸出回数46回、破碎量は2,607kg
2	リサイクル団体回収補助事業	資源物（古紙・空き缶・リターナブルびん）を回収する団体に対して、補助金を交付した。 補助対象団体：92団体、補助金額：2,699千円、回収量：古紙1,232t、空き缶98t、リターナブルびん19,441本
3	出雲市ごみ減量化アドバイザー派遣事業	自治会等が行う研修会へ「出雲市ごみ減量化アドバイザー」を派遣し、ばかしによる生ごみ堆肥化や廃品のリユース方法等について周知を図った。 ・ 講師登録 8名 ・ 派遣回数 70回
4	出雲ごみダイエット通信発行事業	6回発行（第17号～22号）し、市のホームページの掲載及び市内小中学校等への配布を行い、ごみ減量化の啓発を図った。
5	レジ袋無料配布中止事業	レジ袋の無料配布中止やマイバック持参運動を通じ、ごみの減量化を推進した。 ・ 協力事業者数 11事業者 ・ 協力店舗数 29店舗 ・ マイバック持参率 85.6%

【その他の取組】

	事業名	取組み内容
6	ごみ減量化研修事業	コミュニティセンターや出雲市環境保全連合会支部が主催するごみ減量に係る研修会に、市職員を講師として派遣した。
7	スーパー等の店頭回収の推進	スーパー等が行う店頭回収の取組をホームページ等で紹介し、周知を図った。
8	リサイクルステーション設置事業	出雲地域23か所（コミュニティセンター等）、平田地域（ごみ集積場と共に）、佐田地域135か所（集会所等）、多伎地域30か所（会館等）、湖陵地域21か所（会館等）、大社地域72か所（コミュニティセンター等）、斐川地域8か所（コミュニティセンター等）のリサイクルステーションを開設し、資源物（古紙や古布）を回収した。

	事業名	取組み内容
9	リサイクルショップの紹介・周知	市内にあるリサイクルショップの所在地・連絡先等を市のホームページ等で紹介し、リユース、リサイクルを呼びかけた。
10	いつも古着市開催事業	いつも古着市実行委員会主催による「いつも古着市」を開催した。 ・11月22日～23日朱鷺会館（西新町）当日来場者数約1,000人 ・持ち込まれた古着約6,700枚、販売数約3,400枚
11	廃棄物の不適正処理対策	不法投棄防止看板や監視カメラを設置するとともに、出雲市ポイ捨て禁止推進協議会と協力して不法投棄パトロールを実施した。 野外でのごみの焼却については、出雲保健所等と連携し適正処理の指導を実施した。
12	次期可燃ごみ処理施設整備事業	廃棄物の現況把握や将来推計から必要な施設規模等を位置づけた『循環型社会推進地域計画』を策定した。また、敷地造成やアクセス道路の概略案の検討を行った。
13	ごみ処理施設見学バスツアー事業	市内のごみ処理施設を見学することで、市民のごみ処理の現状への理解を深め、ごみの減量・再資源化の意識を高める目的で実施した。 実施：H28.1.27 参加者数：26名

5－2 環境と経済の好循環の推進

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	中間目標値 (H29年度)	実績値 (H27年度)	平成27年度 評価
1	「しまねエコショップ」登録店舗数	32店舗	36店舗	18店舗	×
		【県事業】登録によるメリット感がないため、登録店舗が減少している。制度の再構築が必要と考える。			
2	「しまねグリーン製品」登録製品数	44製品	48製品	43製品	×
		【県事業】登録のメリット感がない。制度の趣旨の理解を図る必要がある。			

(2) 主な取組

	事業名	取組内容
1	環境にやさしい製品の普及と利用促進	県では、ごみの減量化・資源化及び再生利用に努めている店舗を「しまねエコショップ」として認定、また島根発の優れたリサイクル製品を「しまねグリーン製品」に認定し、資源の循環的な利用の促進とリサイクル産業の育成を図っている。市では、これらの店舗と製品の普及・利用を図るために情報提供をした。
2	グリーン購入の推進	市では、職員の地球温暖化対策率先行動計画である「いつもエコオフィス・アクションプログラムⅢ」の中で、グリーン購入の促進を掲げ、すべての機関で取組んでいる。

6 ともに学び行動する 環境意識が高いまち

6－1 環境学習・環境保全活動の推進

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	中間目標値 (H29年度)	実績値 (H27年度)	平成27年度 評価
1	斐川環境学習センターの利用者数	3,841人	4,000人	3,455人	×
		魅力ある環境教育や講座を企画し、ホームページや広報紙を通じて、市民等に利用を呼びかけていく。			
2	ごみ減量化アドバイザー等の派遣回数	83回	100回	96回	○
		ごみ減量化に向けて取組みを継続する必要がある。			
3	こどもエコクラブ登録団体数	19団体	25団体	11団体	×
		未加入ながら独自に環境活動を実施されている小中学校、幼稚園に情報提供し、加入促進を図っていく。			

(2) 主な取組

	事業名	取組内容
1	斐川環境学習センター	地域環境や地球環境を守り、次世代に引き継ぐための拠点施設として利用促進を図った。 ・主催事業 廉油石鹼づくり等 6事業 ・開催回数 191回 ・受講者数 1,192人
2	学校教育での環境学習の推進	廃棄物処理施設の見学やごみ問題について考えたり、動植物の観察や飼育栽培、身近な河川の水質調査等を行った。 また、地域の清掃活動や海岸清掃などのボランティア活動に積極的に参加した。
3	こどもエコクラブ	市広報やホームページを通じ「こどもエコクラブ」の加入について情報発信を行った。
4	出雲市環境保全連合会	市内43支部で、定期的に道路や公園等の美化活動、不法投棄等の巡回パトロール、環境フェア文化祭等での環境啓発活動を行っている。
5	廃食用油を使った親子エコキャンドルづくり講座	ごみの減量化、リサイクルの意識を高めることを目的に、出雲科学館で廃食用油を使った親子エコキャンドルづくり講座を実施した。 実施日：H27.7.25 参加者数：小学生親子50名

6－2 環境情報の提供と共有

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	中間目標値 (H29年度)	実績値 (H27年度)	平成27年度 評価
1	環境新聞発刊	年6回	年30回	年25回	△

環境に関する広報を「出雲エコなび」として一体的に掲載したため、掲載件数は減少したが、ホームページ等は随時更新を行った。

(2) 主な取組

	事業名	取組内容
1	環境ポータルサイト「出雲エコなび」	環境情報をまとめたポータルサイト「出雲エコなび」を運用し、市の環境施策やイベント情報等を紹介した。
2	エコカレンダーの発行	日々の生活の中で省エネ・3R活動に取組んでいただけるよう「エコカレンダー」を作成した。作成部数7,000部
3	広報による啓発	広報いすゞにごみ減量化等に関する啓発記事を定期的に掲載した。
4	イベントにおける生ごみ減量化啓発コーナー出展	8月1日～2日に出雲科学館で行われた「青少年のための科学の祭典2015」に、生ごみ減量化啓発コーナーを出展し啓発を行った。

IV 出雲市役所の取組

市役所は、「いつもエコオフィス・アクションプログラムⅢ」や「出雲市役所本庁舎における省エネルギー行動計画」を策定し、エネルギー消費の低減を進めています。

市のエネルギー使用量(原油換算値)の状況

特定事業者	H22年度 (基準年)	H24年度		H25年度		H26年度	
	原油換算kℓ	原油換算kℓ	対前年度比%	原油換算kℓ	対前年度比%	原油換算kℓ	対前年度比%
市役所	13,848	13,397	99.0	13,242	98.8	13,374	101.0
水道局	2,516	2,672	106.3	2,659	99.5	2,429	91.4
教育委員会	2,322	2,536	100.3	2,551	100.6	2,301	90.2
合計	18,686	18,605	100.2	18,452	99.2	18,104	98.1

※特定事業者とは、エネルギーの使用的合理化等に関する法律（省エネ法）に基づく1年間のエネルギー使用量の合計が、原油換算値で1,500キロリットル以上排出する事業者のことです。特定事業者は、エネルギー消費を管理し、中長期的にみて年平均1%以上のエネルギー低減をすることを目標とし、技術的かつ経済的に可能な範囲で実現に努めるものとされています。

1 平成27年度の取組結果等

(1) 市の事務及び事業から発生する二酸化炭素(CO₂)排出量の削減

ア 数値目標の達成状況

	目標設定項目	単位	基準年度値 (H22年度)	目標値 (H33年度)	実績値 (H26年度)	実績値 (H27年度)	H26 評価	H27 評価
1	CO ₂ 総排出量	t-CO ₂	8,616	7,757	7,763	7,528	○	◎

イ 二酸化炭素(CO₂)排出量の内訳

庁舎関係

	目標設定項目	単位	基準年度値 (H22年度)	目標値 (H33年度)	実績値 (H26年度)	実績値 (H27年度)	H26 評価	H27 評価
1	電気	kWh	10,935,200	9,732,300	10,071,713	9,953,540	○	○
2	灯油	ℓ	401,200	373,100	377,103	361,396	○	◎
3	A重油	ℓ	240,700	228,700	146,500	107,000	◎	◎
4	LPG	m ³	35,500	33,720	22,275	21,446	◎	◎
5	都市ガス	m ³	120,000	105,600	97,772	87,648	◎	◎
6	ごみ排出量	kg	19,600	17,640	22,225	22,219	×	×

公用車関係

	目標設定項目	単位	基準年度値 (H22年度)	目標値 (H33年度)	実績値 (H26年度)	実績値 (H27年度)	H26 評価	H27 評価
1	ガソリン	ℓ	170,200	153,200	126,253	132,073	◎	◎
2	軽油	ℓ	10,500	9,980	13,098	13,124	×	×

ウ 主な取組

	取組内容
1	冷暖房設備の温度設定管理と室温の適正管理（夏季は28℃、冬季は19℃）の徹底を図った。
2	職員のクールビズ（5月1日～10月31日）、ウォームビズ（11月1日～3月31日）を実践した。
3	両面コピーや縮小コピーを徹底し、ミスコピー紙や不要になった用紙の裏面を有効活用する取組を実施した。
4	課ごとに重点取組項目（5項目以上）を設定し、職場単位でのエコオフィスを推進した。 ・昼休み、時間外などの不要な照明の消灯の徹底 ・職員のエレベーター利用の自粛など
5	各職場に環境活動推進員を選任し、エコオフィス推進の実務研修を行うとともに、課ごとに職場内研修を実施し、数値目標や取組項目を周知徹底を図った。
6	各課における取組状況の確認、評価を行うため、15職場において内部監査を実施した。
7	人事異動の時期や年末など、庁舎のごみ排出量の増加が見込まれる時期には、排出抑制と分別の徹底のための職員周知を行った。

エ 課題と今後の方向性

市の事務事業に伴う二酸化炭素（CO₂）総排出量や灯油などは目標値を下回りました。今後も、使用最大電力のピーク時間帯の分散化や冷暖房設備の温度設定を適正に管理するなど取組を推進していきます。また、市有施設の新築や改築時には、省エネルギー設備を積極的に導入していきます。

庁舎内のごみ排出量の削減について、重点項目に追加し排出抑制を徹底します。

(2) 平成 28 年度における「通勤距離 3km 未満の市職員のマイカー通勤自粛」の取組

ア 数値目標の達成状況

	目標設定項目	単位	基準年度値 (H23年度)	目標値 (H28年度)	実績値 (H27年度)	実績値 (H28年度)	H27 評価	H28 評価
1	ノーマイカー通勤率	%	43%	80%	44%	51%	△	○

イ 主な取組

	取組内容
1	職員の率先行動として、毎月第3週を「市職員工コ通勤ウィーク」と定め、歩行、自転車、バイク、公共交通機関利用によるエコ通勤を呼びかけている。

ウ 課題と今後の方向性

マイカーで通勤している職員の中には、自身の体調や職場環境、家庭環境など様々な要因がうかがえます。目標に近づくよう、各職場に配置している環境活動推進員を中心に、今後も継続的に啓発していきます。

表紙の写真
薺の長浜 [出雲観光協会]

出雲市環境レポート

発行日：平成 28年 12月

編集・発行：出雲市経済環境部環境政策課

〒693-8530 出雲市今市町 70 番地

TEL : 0853-21-2211 (代表)

メールアドレス : kankyou-seisaku@city.izumo.shimane.jp



吉紙パリピ配合率 100% 再生紙を使用
植物油インクを使用しています。